

地域と取り組む緑化活動

～自然林公園化構想～



岐阜県立飛騨高山高等学校	環境科学科	3年生	岡崎 俊輔
	環境科学科	3年生	祐成 亮一
	環境科学科	3年生	高橋 和彦
	環境科学科	3年生	中本 真人
	環境科学科	3年生	楠 翔太

(緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞)

要 旨

昨年私たちは「自然災害と森林」について研究し、「適切な管理をした森林は災害を防止する」という結論に達しました。このことから森林の適切な管理・有効利用を行うことにより、森林が私たちの暮らしを守ってくれると考えました。しかし、現在では森林に興味を示す人たちが減少しています。

そのため私たちは地域の方々から森林に目を向けていただくため「地域と取り組む緑化活動～自然林公園化構想～」というテーマを立てました。

はじめに

飛騨高山高校は開校当時、丘陵地の森林を伐採し切り開いて敷地を造成したため、赤

茶けた地肌が露出した緑のない風景でした。この殺伐とした自然環境を見かねた当時の先輩方、先生方など多くの方々が、校地に5つの重点緑化ゾーンの構想を掲げ、毎年卒業生の総意で記念植樹を行うなど長期計画に基づき校内緑化に努めてきました。そして現在、緑化活動は、本校の伝統となり、

私達も授業などの一環として緑化活動の充実を進めています。この30余年という長きにわたり行われた活動が認められ、平成15年の「全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部」では特選の文部科学大臣賞を受賞し、昨年は内閣



(平成11年東海豪雨の調査)



(学校の空中写真 過去㊤・現在㊤)

総理大臣より、「緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞」を頂きました。これを契機に「緑の募金運動」、

地域の方々や学校との交流など、緑化を啓発する活動に取り組んでいます。そして今年「全国植樹祭」が本県で開催されたということで、これに積極的に関わり植樹祭を通して、緑化をさらに地域や全国に広めたいと考え様々な活動を行いました。

1 活動内容

(1) 緑の子ども会議

まず私たちは「緑の子ども会議」に参加し、全国植樹祭岐阜県実行委員会と本校とのテレビ会議で、全国植樹祭の開催方針や基本構想について話し合いました。その中で私たちは、「里山への理解を深めてもらうため、イベントを開催する。」「式典は、たくさんの子どもの参加してもらう。」などの提案を出しました。そして、「子どもが主役の全国植樹祭」を開催方針とする基本構想が示されました。

また郡上市白鳥町にある白鳥林木育種事業地では、全国植樹祭で使用する苗木畑や種子貯蔵庫の見学、学習を行い、また会場で使用されるムラサキシキブとシモツケ・カナメモチの挿し木体験も行いました。



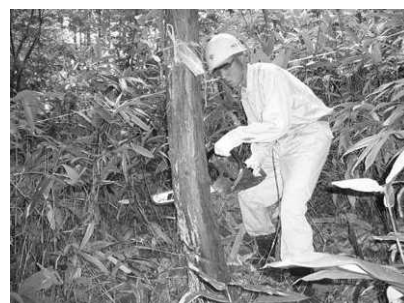
(苗木作り・挿し木体験)

(2) 全国植樹祭イベント

次に私達は、全国植樹祭のイベントとして「花咲く間伐大作戦」に参加し、高山市一宮町（国道41号沿い宮峠付近）で、間伐・玉切り・搬出作業を行い、林業の



(地域の方々とプランターボックス作り)



(間伐の様子)

大切さだけでなく、実際の現場作業の大変さや、安全の重要性

を学びました。間伐作業が終わると間伐前暗かった森に日がさすようになり木々が生き生きとなったように感じました。

この間伐作業で切り出して搬出した木材を利用してのプランターボックス作りが高山市清見町の「ひだ清見ふるさとまつり」で行われ、私たちも参加しました。プランターボックスは、私達が指導者となって、清見のイベントに訪れていた地域の人たちと作成しました。このプランターボックスは2箇所道の駅に設置させて頂きました。また、昨年岐阜県で開催され高山で行われた「農業クラブ全国大会・家畜審査の部」に出場した選手の方へのプレゼントとして間伐材を利用した写真立てを環境科学科で製作しました。

この活動により地域の方々や若い人たちに間伐で出た木材を利用することの大切さを伝えることができましたと思います。

(3) 森林づくり1000人委員会

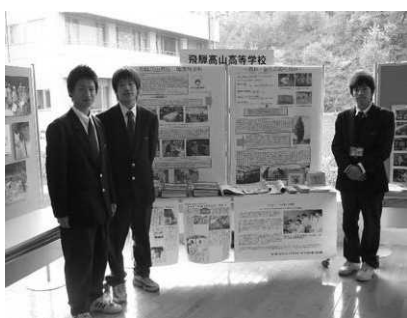
緑化活動を行っているときに、「地域の方々には森林についてのどのような意見を持っているのか?」と興味を持ったので、岐阜県が開催した「森林づくり1000人委員会」に参加し、多くの方の意見・提案を聞くとともに、私たちも意見を述べてき



(森林に対する考えを発表)

ました。参加者からは、「子どもが気軽に利用できる森林が少ない・森林環境教育の実施・森林の大切さ、木のよさのPR不足」などの意見をいただきました。一方、私たちは、「山で働く人が少ない・誠意を持って山の管理をする・新たな発想で木材の利用法を考える」などの意見を述べました。これらの意見から「期待する森林の機能」と「重点的に取り組むべき施策」をまとめると、災害防止に期待をして見える方が多く、「健全な森づくりによる災害防止対策を重点的に行ってもらいたい」ということでした。最後に森林の持つ課題の解決に向けて、主体と役割を決め、必要な取り組みについて話し合いました。「個人も森林に関係する様々な機関も、もう一度森林にしっかりと目を向け、森林のためにできることをしっかりと行うことが大切」という結果となりました。会議を終えて、私達もこれからの森林・林業に携わっていくもの、後継者として、非常に多くの役割があると感じました。

(4) 緑化PR



(飛騨高山高校の展示)

また学校から地域へ森林の大切さを発信するため、飛騨・世界生活文化センターで開催された第8回飛騨高山会議に参加し、私達の活動状況や森林の大切さを伝える展示を会場ロビーの「森林・環境展」にて行いました。さらに授業でも間伐材利用を行い、木製ベンチの製作を行っています。木製ベンチは、製作するだけでなくその一部を地域の人達に使用していただけるようにしました。学校祭では、木工教室、坪庭の展示、クラフト作り体験、みはと幼稚園へのベンチ贈呈などを行いました。老人介護施設

ケア21での交流学习でも、木製ベンチの寄贈をはじめ、木工体験の実施、緑化募金の実施、花もちづくりなどをお年寄りの方と楽しく行うことができました。一般の方を対象とした開放講座では、写真立て・木製パズル・木製トレーを製作しました。このような活動により実習などで学んだ技術を地域のために役立て、地域の一員としての意識を高めるとともに多くの方に木材の有効利用や森林の重



(みはと幼稚園へのベンチ贈呈)



(地域の方々と木工体験)



(老人介護施設との交流)

要性などを発信できました。また私たち自身、参加していただいた方から教わることもたくさんありとても勉強になりました。

(5) 学校での実習

日頃の実習では、森林の保育・管理作業など様々な実習を行っています。2年生のインターンシップでは、飛騨森林管理署で実際行う間伐や徐伐作業、



(森林管理署でのインターンシップ)



(山中山国有林での現場見学)

測量などの体験をさせていただきました。また3年生では荘川・山中山国有林に行き、造林費活用型の間伐2残1伐の列状間伐を見学しました。実際の現場作業を肌で感じることができ、教科書や学校での実習では学ぶことのできないとても貴重な体験ができました。

2 学校自然林公園化（森林環境教育の場）

様々な活動や多くの方々の意見を踏まえ、「これからの森林・林業はどうしていきべきか？」と考えた時、今まで行っていた森林管理や林業をこれからも活発に行っていくとともに、緑化推進の出発点として、もっと多くの方に森林に興味を持っていただき、森林の大切さ、重要性をわかっていただくことが大事であるとわかりました。そのために、私たちが中心となり森林環境教育の場を創っていきたく考えました。そこで、本校にある自然林の中に「森林づくり1000委員会」で出た意見を参考にしながら、5つのゾーンの構想を立てました。1つ目は、「自然林ゾーン」とし、森林散策や樹木観察、昆虫の観察や採取体験が行え、自然と親しみながら森林について学べるゾーン。2つ目は、「木材加工・生産ゾーン」とし、炭焼き体験や木工体験などを中心に行き木材のよさや加工の楽しさを実際の作業を通して学ぶゾーン。3つ目は、「森林浴ゾーン」とし、景観を重視した森林作りを行い、そこにベンチなどを設置し、憩い・癒しの空間を造り、訪れた方が保健休養できるゾーン。4つ目は、「特用林産物ゾーン」とし、キノコの菌打ちから収穫までの体験、山菜観察・収穫体験などが行おこなえる里山的なゾーン。5つ目は、「森林保育ゾーン」とし、苗木生産や植林体験・下刈り・除伐・間伐などの森林保育・管理作業が学べるゾーンの創造を現在進めています。この各ゾーンの特色や季節を考えながら地域の大人の人から子どもまでを対象に、開放講座を行いたいです。

おわりに

様々なことを実際に体験していただき地域の方々が少しでも森林のことに興味を持っていただけたらよいと思っています。また多くの子どもの森林の大切さや恩恵を楽しみながら学んでもらいたいです。そして山を持っている人はもちろん山を持っていない人でも緑化活動に積極的に参加していただければ、子どもは将来にわたって森林を正しい知識で守っていき、後世にこの素晴らしい緑の資源を引き継いでもらえると思います。

私達は100年後、200年後の未来の森林を想像できる担い手として森林を守り、再生が出来る資源として利用する事を考え、これからも授業などを通して母校の美しい景観を護っていき、伝統を引き継いでいくとともに、緑化の大切さ・森林の大切さを発信していきたいと思えます。



(ナメコの駒菌打ち)



(学校自然林での植物観察)



(森林インストラクター・浄安杉)